

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録	
開催日時	平成27年10月27日（火）午前10時00分～12時00分
開催場所	江田島市役所 本庁 2階会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>寺崎 雅浩 広島県健康福祉局子育て・少子化対策課 上迫 滋 広島県CCMO（県政コミュニケーション・マーケティング総括監） 中井 高志 江田島市金融懇談会 濱中 繁美 江田島市自治会連合会 富田 美保 江田島市PTA連合会 加藤 真由美 江田島市認定こども園こよう保護者会 清水 昭彦 田舎暮らしを楽しもう会 村上 浩司 江田島市農業委員会 久保河内 鎮孝 江田島市漁業振興協議会 平田 圭司 江田島市商工会 市村 匠 公立大学法人県立広島大学（座長）</p> <p>■江田島市</p> <p>【事務局：企画部企画振興課】 畑河内 真 企画振興課 課長 道本 浩二 企画振興課 専門員</p> <p>【事務局：株式会社エブリプラン】 木原 隆</p>
欠席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>周藤 康治 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所 伊藤 富美雄 江田島市観光協会</p>
傍聴者	8名
会議次第 及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会 2 座長あいさつ 3 協議事項 （1）パブリックコメントについて【資料1】 （2）江田島市人口ビジョン案及び江田島市総合戦略案について【資料2】 【資料3】 4 その他 5 閉会</p> <p>【資料】 資料1 : パブリックコメントについて 資料2 : 江田島市人口ビジョン案について 資料3 : 江田島市総合戦略案について</p>

会 議 記 録	
事務局	<p>1 開会</p> <p>本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。会議の開催にあたり、お手元の資料の確認をお願いします。最初に次第、2枚目に委員名簿、3枚目に資料1、次に資料2として人口ビジョン、資料3とのあいだに資料2追加資料として1枚、資料2の参考資料が1枚です。最後に資料3をつけています。最後に前回議事録もつけています。不足はございませんか。本日、議事録を作成しますので、会議を録音させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ただいまより江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議第3回会議を開催します。会議は、次第に沿って進めます。はじめに座長から、ごあいさつをお願いします。</p>
座長	<p>2 座長あいさつ</p> <p>県立広島大学の市村です。本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。式次第のシナリオが私の手元にあって、ここに見てみると、座長あいさつと書いてあって、文言は指定されていないのでお話しさせていただきます。</p> <p>今日で最後になると思いますが、2回目と3回目のあいだに僕は香港へ行ってきました。数年前に香港へ行ったときと比べて、非常に活気があふれていて、まちなかに人があふれると。時期もあったでしょうが、前に行ったときはそれほどでもなかった。その分、まちなかの空気が非常によどんでいて、ちょっと先が見えない状況でした。そのとき、何を思いましたかという、一緒に何人か、現地でも食事をしに行ったりしたのですが、船に乗って食事をしに行っただけですね。30分ぐらいで島に着いて、そこで海鮮料理を食べさせてもらえるところがあって、言ってみれば香港の江田島かなというかたちで思っていたんですが、なかに一緒に行った人に、日本人ですが、なんかここは江田島みたいだねという話が出てきて、なんでそこまで知っているのかなと、フェイスブック等で見ているというのはあったのですが、知名度だけは上がっていて、江田島にもこういうところがあればいいのにねと言われました。</p> <p>皆さん、市だけではなくて、その人は東京の人ですが、全国からも、そういうふう注目されていて、いろいろ期待されていると。同様に、香港と比較して何がいいかという、自然がいい、空気もきれいだしというところがあって、そういうところで行ってみたいということも言われました。海外で江田島の話が出ると思いませんでしたので、皆さんがいろいろ活躍されて、徐々に知名度が上がっている証拠ではないかと、僕自身も喜んで聞いていました。本日はまたこれから1時間ちょっとですが、パブリックコメントをいただいています。僕も途中で拝見させていただいていますが、かなり多く増えてきていて、逆にいうと、これほど皆さんに注目されているものなんだと、あらためて痛感しました。今日はそれについて皆さまとご検討させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本日の出席者ですが、江田島市観光協会の伊藤委員、呉公共職業安定所の周藤委員が本日ご欠席でご連絡をいただいています。</p> <p>それではこれより次第3協議事項となりますが、座長は会議の議長になると規約もございますので、ここからの進行は議長のほうでお願いします。</p>
座長	<p>3 協議事項</p> <p>是非皆さま、発言していただくようお願いいたします。今までも発言はしていただいていると思いますが、時間的なこともあって、なかなか満足な発言ができないということもあろうかと思いますが、なるべく完結にお話しいただければと思います。</p> <p>それでは次第3の1、パブリックコメントについて、事務局より説明してください。</p>
事務局	<p>(1) パブリックコメントについて【資料1】</p> <p>資料1をご覧ください。（「パブリックコメントについて」説明）</p> <p>※内容は資料1のとおり</p>
座長	<p>この件について質疑があればお願いします。</p>

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

委員	大柿高校の定員充足率（%）目標値 66.7%理由付記について、「市内唯一の高校の統廃合対象化の回避を念頭においた目標設定とはしていますが、関連施策の目指すところはあくまでも教育の活性化にあります。施策目的の誤解を避けるため、背景までは記載しない」とあるが、どういう背景があるのですか。
事務局	意図としては、こうしたことで、そんなに難しい背景があるからどうこうという意味ではなくて、ここでいただいた意見が定員充足率 66.7%を目標値として掲げていて、大柿高校は 80 人を切ったら統廃合の俎上に載りますということで、そこをクリアするかたちの目標値の設定にしていますが、実際のところ、大柿高校の活性化を図るのはなぜかという、80 名をクリアしたいからというのではなくて、あくまでも大柿高校が魅力ある学校になるのが目標、施策の目標としてある。それをやっていった結果、80 人をクリアできればいいと考えていますので、ここでなぜ目標値がこれなのかという、80 人をクリアするためなんだという背景を書いたら、それが目的なのかということで誤解を受けるかなと思いましたが、あくまでも大柿高校の活性化を図るのはなぜかという、高校を魅力あるものにするためだということと理解していただきたいということで、80 人をクリアしたら統廃合うんぬんとあえて書かないと、そういった整理にしたいということで、このようにしています。
委員	他に何か意図があるのかと思って、こういう書き方をされると目的の誤解を避けるために背景まで記載しないと、何か意図があるのかと思って、質問させていただきました。別になければいいです。
事務局	これはパブコメの回答みたいなかたちで市のホームページに載せるようになると思いますので、誤解のない表現を考えます。
座長	ありがとうございます。僕も回答をどこかで公表するのだと思っていて、そのやり方と時期が決まっていれば、教えていただこうと思っていました。他にございますか。僕が 1 つ、事務局に質問があります。検討しますとか、今後こうしますという書き方をされているところがありますが、それは大体いつぐらいまでという期日を書くことは難しいですか。
事務局	長期的なもの、短期的なものが項目のなかにありますので、短期的なものについては来年度、当初予算整理の過程で議論できると思います。長期的なものは、ここまでにというのはなかなか難しいかなと思っています。
座長	短期的なものは、その結果がどうなったかが、いつ見ればわかるかが見えれば、追っていけるからいいと思います。長期的なものは、ここで書かれていることが、この場だけで終わらないかということ、継続的にどこかで審議していくことが必要で、だからそういう長期的なという書き方をしていると思うので、できれば長期的なものに関してはどういった場で考えていきましょうとか、引き続き、どこで検討すると書ければいいかなと思います。パブリックコメントで頂いたコメントに対する回答で出しているもので、今後、それをどうやって皆さんが追っていけるかを見せておくと、継続的に皆さんがこれを見て、不足しているのもまた意見が言いやすいかたちになるのではないかと思います。そうしてくださいという大変なことになるかもしれませんので、そこは検討してください。
委員	定住促進の関係で 3 ページに出っていますが、実は 10 日前に北海道から移住してこられた 35 歳の夫婦ですが、その人の場合、移住と居住する家、仕事というのが 1 つのコンプリートでなければダメだったんですね。その仕事のあっせんをするということについて、行政としてはそこまで現状はやっていない。今、社会福祉協議会で来年 3 月まで正式に無料職業紹介事業を展開するという計画が進んでおられますが、このたび私らは個人的に、その会社の社長に雇ってもらえないかと頼みに行き、雇っていただけなのですが、その辺の整備をしないと、その 3 つがコンプリートできる体制を早く整えないと、今ここでやっておられる 30 歳代の方の移住を促進しようと思えば、そこまでの対策を練っておかないとダメだと思います。若い子連れの人たちが来てもらえるのは非常にうれしいので、どんどん来ていただきたいと思いますが、そういう後ろ盾をしっかりとっておかないと、僕らは、どうぞ来てくださいと言うだけではダメだと思います。

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>もう1つ、定住促進の活動ですが、現実には相手からのアクセスを待っているという受け身です。そうではなくて、今はどこの市町もそうですが、積極的にうちの市へ来ませんかというPRも兼ねたイベントをやっておられる。個々の市でやっておられるというのがだんだん顕著になっていますが、その辺の今後の対策はどうかということ、交流促進課のなかに定住促進の担当がありますが、その辺のコラボがどのようになるのかが、はっきり確認できないので、どこがどうかということも疑問に思っただけで動きにくい部分があります。その辺の今後の展開がどうなるのかも、教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>仕事のあっせんですが、具体的にやるとなると、法律的に言えば職業の紹介は、社会福祉協議会さんの考えている無料職業紹介事業、あいう届けなどをやらないとやってはいけません。それ以外のところで、ツテでお願いするというアクションになると思いますが、今後そうした仕事については、社会福祉協議会さんのされる無料職業紹介や職業安定所などで集められた求人情報を取り込みながら、やっていくしか手がないかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>それではぬるいと思います。できません、現実には、それは。行政も法的な部分はありませんが、しかし縁故でその辺のいろんな情報を集めるということで、行くのは紹介までして、あとは話をじかにしてくださいという対策までとらないと、過去の例からすると、来てください、仕事もありますということは、公に言えない、過去の例として。そこまでやらないと、若い方の移住促進は難しい。仕事がないと無理。このたび北海道から来た人は、自分で、インターネットで、江田島にはどんな会社があるかを全部調べてきて、この会社に行きたいということをはっきり持っておられたので、たまたまそこに縁故があったので、社長にお願いして雇ってくださいとできましたが、そういうサンプルを手持ちとして多く今後は持つておかないと難しいと思いますよ。地方創生で定住促進は大きな比重を持っていると思います。その辺を、市町だって、よその市町もやっていますよ。今の法律がどうのということ以前に、うまく迂回してやっている部分もあると思いますが、そこまでやらないと、定住促進うんぬんは、なかなか発展できないと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>仕事について、所管課に情報を聞きながら、どういうことができるか、また検討させていただきます。定住について受け身という話をいただいて、実際に定住促進の部署では、県外の定住フェアなどに出ているということで、そういったPRをやってはいますが、実際のところ、それ以降の今回重点プロジェクトのなかに市のセールス戦略の構築、交流促進に関するところを書いています。そういったところで江田島市が外の方に、どういうところが魅力を感じてもらえるのかというあたりも洗い出しながら、それをまたPRすると、そういったところで魅力を知ってもらい取り組みもやっていきたいと思えます。そのなかで、定住促進ともリンクしながらできないかなと。</p>
<p>委員</p>	<p>定住促進に関する活動はスピードをもってやってもらわないと、よその市町は、かなり動いているので、今の江田島のペースでは、とてもじゃないけど、置いてけぼりをくいます。よろしくをお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>県も結構やっていて「HIROBIRO ひろしま移住サポートメディア」というサイトが立ち上がっているのですが、是非あとで見ていただけたらいいのですが、かなり洗練された感じのデザインのサイトで、県全体のあちこちの市町、実際に移住して活躍している人をクローズアップして、かなり利用する人からみると、非常に、自分がいくとどうなるのかが、わかりやすいかたちのものができていると思います。そこに、県の側から見ていると、積極的にネタを出してきて、こういういい人がいるんだけど、載せられないかという働きかけが強い市町と、そうではない市町があって、江田島はどちらかということ、あまりアプローチしてこない方に属しているので、もったいないですね。そういうのも是非連携していただけたらいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今、仕事のことで関係しているので説明させていただきます。今年8月8日に江田島市内の合同の求人説明会を開きました。商工会と社協さんと連携して、約20社が参加されました。実際にその場にいられた方、求人者が40名強で、実際のアピールが足りないのはもちろんですが、企業関係、漁業関係、商工関係、実は人材が不足しているんですね。</p>

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>非常に求人も多くありますが、なかなかその辺が、今清水さんが言われたように、ミスマッチが起こっていて、一生懸命探している方は探しているのですが、応募される方がなかなか来ないということで、その辺の情報を社協さんと連携して、無料の職業紹介所というかたちに、というのは、結局そのなかに情報を一元化して、求人、その辺のアンマッチと定住される方に対しての情報提供ももちろんですし、実際に企業活動も人が足りないとなかなか行っていけないので、実はその辺が非常に大きな問題となっていて、そこをなんとか解消して、先ほどいろんな情報をご紹介いただきましたが、うまく連携していかないと、個々でやっても、なかなか繋がらないし、実は知らないのだと。当然、行政も連携してもらって、そういう情報に関しては、あそこへ行って聞いてくださいということの連携がうまくできると、もっとうまく紹介できていくのではないかと思います。この連携不足を非常に感じています。非常に課題があると思います。</p>
<p>座長</p>	<p>今のは、それぞれの団体の連携不足と、市がやらないといけないことがあると。その市のやらなければいけないことは、どういったところが望まれているかを聞かせていただけますか。</p>
<p>委員</p>	<p>ここにパブリックコメントに書かれている内容で、かなり携わらせていただいている部分が多くて、これを読ませていただくと、おそらく10年以上前から、この問題や課題を市民の皆さんは多く持たれていると思いますが、またパブリックコメントをとったときに、また同じ内容を書かれるということは、この10年間、さほど市民の皆さんに対して変化が見えなかったと。これが一番の大きな問題だと思います。じゃあ、それをどうするかというと、市民のニーズに対して、どういうふうに対応していくかという、コントロール的な役割を市は行政が担っていただいて、関係団体、関係各所と連携して、この問題へ取り組んでみましょうということの、いろんな協議会があったり、いろんな戦略がありますが、なかなか下りていけないという状況も課題であると思います。実際に動いているはずですが、なかなか市民には伝わらないところも課題があると思います。横のつながりや、関係団体のつながりをもっと強化していかないと、各団体、皆さん、一生懸命されているわけなんで、そこに行って聞くと、よくわかるのですが、実はそれ以外の方は、そんなに情報を知らないとか、別に垣根があるわけでもないのですが、連携が不足しているのではないかと。</p>
<p>座長</p>	<p>一つは市の職員がもうちょっと、各団体のなかに入って動くということが要望されている、そういう考え方ですか。</p>
<p>委員</p>	<p>市の職員の方には、そういう協議会に参加してもらっていますが、市の内部で横に繋がっていないという現状が見える気がします。参加された職員の方が、市役所に帰られて、こういう話がありましたということ、幹部の皆さんと情報を共有していただきたい。その取り組みについて、どのくらいのヒアリングの説明があるか、私もわかりませんが、その話、知らないの、この前出られていましたよねと、違う人に聞くと、いや、知らないとなりますので、コントロールセンタ的な役割を行政に担っていただいて、情報を共有していくなかで、そこに聞いてやりましょうということ、もう少しシステムが構築されれば、もっと市民に対しても、われわれに対しても情報の理解度が速くなっていくのではないかと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>今の話ですと、10年やってみて、結局出てきていることが同じだということなんです。その10年のなかで、逆に変わったところは、各団体さんでは、変わってきているんですね。商工会さんは商工会さんで、いろいろ変わってきている。おそらく市も変わってきていると思うんですが、そのすり合わせがうまくいっていないということですか。</p>
<p>委員</p>	<p>市政は10年たって、合併してからということですが、江田島市も変わっているはずですが、変わっていることの市民の理解度があまりなくて、変わっていないの、悪くなっているというイメージの方が、増幅されていることに問題があると。その辺が変わっていることをしっかりPRされて、江田島はこんなによくなっているというところを重点的にPRしていくところについて、市内にも、市外にもアピールしていく必要があると思います。観光面もそうですし、いろんなかたちでやらないと、伝わらないのではないかと。これは、非常に大きな課題だと思います。</p>

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

委員（続き）	パブリックコメントの対応の書き方ですね。先ほども座長が言われましたが、取り組んでいきますという表現になっていますよね。検討していきます。実際に、現在やっていくものもありますね。現在取り組みを行っているものに対しては、取り組んでいきますじゃなくて、取り組んでいますと、はっきり言っている、そういう書き方にしたほうが、現在、こういう内容で実際に取り組みを行っているという言い方にしたほうが、やっているんだということは伝わりますので、それは言葉尻だけの問題かもしれませんが、実際には市も一生懸命やっていると伝えていかないと、市民の理解を得られないと思います。
座長	今の話に解はないかもしれませんが、本質が出たような気がします。今の意見に対してどうだというのではなくて、他に自分はこういう意見を持っているという方はいらっしゃいますか。
委員	前回も参加していないのでよくわからないのですが、今話を聞いて思ったのが、10年計画を3月いっぱいまでに江田島市が考えられて、今後の10年後にこうしようと計画を立てられたばかりで、この話がきたのでどういうことかなと。私も勉強中ですが、今、資料を見ても10年計画で市民の方の意見の言葉と、この文が、ほぼ一緒なんですね。今から江田島市が10年計画でやっというのを、ここで言われている気がして、10年計画が本当にいけばいいでしょうが、財政問題もあるでしょうが、やらなきゃいけないことは、ポイントポイントで出ている。今、言われたように、北海道の方が近くに住んでこられて、自衛隊の方かなと思っているのですが、そうじゃない方も。
委員	一般の人です。
委員	よくこんなところに来られたと思っちゃいけないんでしょうが、この1週間でニュースを見ていて、小林市が今、ネット上で出ていますね。あれを主人とみていて、私は熊本出身なので、宮崎の小林市を通ったことはありますが、本当に山の方なんですね。NHKでやっていたのが、市役所の方が来てくださいの次に、こういう仕事がありますというのを紹介されていたので、さっき言われたように、仕事先も提案していかなければいけないけれども、問題があるというのがあるんだとわかったし、そのときも、探せばあるでしょうが、まず仕事が先だと思います。委員が言われたように、仕事をするとしたら、意外とあるんですね。だけど、さっき言われたように、求人を探しているのに、誰かいませんかと私も言われるんですが、なかなかお母さんたち、どこで働いているんだろうと思うぐらい、要は呉に出たり、広島に出たりという方が多いなと思うので、島で働かないと思うのですが、結局、そこに何かのネックがあるんだろうなと思います。だから、そういうふうに、今、市も頑張ってる歩み出したときに、こういう意見が出ているのは、ちょっと早めに動かなければいけないんだなというのを感じましたので、10年計画で出せばもっともったいいのかなと思うけど、まだ歩み始めたところで、こういうのが出ているんだなと。実際に高校は、うちは高校3年の子がいますが、就職がぼんぼん決まっていって、じゃあ、大柿高校の子はどうかと、私も同級生の子もさんがいるから気になりますが、就職より進学のほうが今までは多かったみたいですが、就職も決まっていっていると聞いたので、子どもも減っているんで、来年は定員割れするのではないかと話が出ている。科も減らそうかという話が出ています。保護者とすれば、入りやすいのかなと思いますが、入りにくくなってきているのではないかと不安が、塾の問題もあるでしょうし、なかなか難しい問題がいっぱいだなと思うけど、大柿高校は残ってほしいという保護者もけっこういます。
座長	僕が感じているのは、さっき団体がと言われたのですが、1人1人の個人として考えたときに、住まれている方は不安が募る一方なのか、それとも将来に希望を持って頑張ろうと思えるのか、そういうところが一つ考える必要があるのではないかとこのところ思うんです。将来に向かって、大変なことがあっても頑張ろうというような気持ちになれるまちで、人が増えていくんじゃないかと。話を聞いていると、頑張ろうよと言っている反面、あれというところも両方あって、マイナスのほうの考え方とか、感じているものをなんとか解消していかなければいけない。それを誰が解消するかというところがあると思いますが、一つはもちろん市でしょうが、自分たちでそれをなんとかやってみようというところを持つということも重要なことではないかと思っていて、そういう人が増えていける体制が、求められていると僕は思っています。他にご意見はございますか。

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

<p>委員</p>	<p>うちは実は銀行で1年ぐらい、人を募集しています。おそらくもみじ銀行さんもしているので、江田島支店もしています。パートさんが空くと、なかなか地元で雇えないので、非常にそこに苦慮していて、銀行本体からも、人を派遣してもらえない状態でやっています。そうすると、お待たせする時間が長くなったり、いろいろ弊害が出ていますが、正直どこに行っても、求人紙が貼ってあるので、江田島市内の就労希望者がどれくらいいらっしゃるのかと。先ほど富田さんがおっしゃられたように、僕らもよく知った方に、誰かいませんかと、みんなで話になっちゃうと、平田さんがおっしゃられるように、何か一つ大きな情報源があって、そこにアクセスすれば、就労希望者はこういう方がいらっしゃいますというようなことがあると、ハローワーク的な感じですが、助かるなど。今、仕事をやっていて、特にそう思っているの、人の確保に苦慮しています。給料が安いのもあるんですが。</p> <p>ずっと1年半、人がいない状態でやらざるを得ない状態になって、今現状、思っています。それと、そういう希望者の方の顔が見えないのが悩みです。定住やここに人が住まう一つの要件として交通や学校という話が出ましたが、前回は申しあげましたが、人が居を構えるときのモチベーションは、家を建てる人たちを、どう引き込むかということで、そこに関していうと、海を渡ると江田島と南区宇品が10倍の地価になるんですね、南区宇品が60~70万するのかな。同じ家を建てるなら安いほうがいいというモチベーションが働くと。実際、売れない団地も価格を300万ぐらい下げると、あっという間に売れるという事例が山奥のほうでもあるので、そういう意味ではコマーシャルをかねて、例えば住宅販売業者さんと手を組んでPRをしてみるのも手ではないかと。空き地が、どこにどれくらいあるのかもありますが、通われてこられる方もいらっしゃるの、通う方も増えていくのではないかと思います。可部の奥から電車を乗り継いで、バスに乗って1時間半とか、下手すると混むと2時間かかりますが、ここからだ30分で宇品へ着きますし、宇品境界でお勤めの方を引っ張り込むことは、十分考えられるのではないかと思います。その辺が、先ほどからPRの話がありますが、実際、選択肢に入っていないので、住宅メーカーさんも江田島に家を建てると思っていないですね。そこら辺を、少しイメージを変えていただく。実際に住んでいる方は、非常にいいまちだとおっしゃっている。でも、それが伝わっていないというか、定住に関心が、田舎暮らしがしたいという方、関心が高い方が、アンテナに引っかかっていますが、それも大事ですが、普通に家を建てようかと思う人が、江田島もあるよねという状態に持って行くのも、一つの手ではないかと思います。</p> <p>実際にハウスメーカーでヒアリングすると、確かにそうですねという答えは返ってきて、感触はそんなに悪くないので、何か一つ、どこでということもないのですが、考えられる住宅整備の話も、確か出ていましたが、マンションを建てたらどうかとか、確かに広島市内、呉市内でマンションを買うより、安く買えるので、そういう意味で、住宅ということも少し住まいをつくることも、計画のなかに入れて、定住者促進の一環として安い家が提供できることも入れてみれば面白いかなと、やってみないとわからないことではあります。</p>
<p>委員</p>	<p>さっき委員が言われた社協との連携で、企業が募集しますよというのが出ていたじゃないですか。あれを見たとき、非常に心強く思いました。結構あるじゃん、江田島にと。私が目にしたのはそれが最初で、けっこう江田島にこれだけ求人を募集している会社があるんだということで、心を強くしました。やはり先ほど言われたような情報の提示、広報するということにおいて、もうちょっとやってもらおうと、もっとやり易いかなと。できれば、よそからネットでそれが見られるような格好にしよう、移住に結びつきやすいと思うので、今からまだまだ募集を出してもらいたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>職業紹介ということで実際にただ就職できるよということだけではなくて、江田島市内での生活の基盤として収入が必要になるので、自立支援とか、セーフティーネットとか、非常に大きな意味がありまして、江田島のなかで、自立して暮らしていただきたいということも当然見据えていかなければいけない。先ほど連携の話を見せていただきましたが、雇用の創出は産業の育成、産業支援であったり、そういったものが複雑に絡んでいかないと、いざ、誰かを雇用しようという方向にいかないの、そこもまた別な角度で</p>

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

委員（続き）	<p>支援していますが、実際には、それは一体的なことです。ですから、先ほどコントロールというのは一体的な活用によって、市外から新たに人が住まわれて仕事をされることで、さらに経済が活性化することに繋がっていかないと、なかなか数字的に目に見えて人口が増加していくという数値では、出てこないかなと。</p> <p>そのためには、最低限の経済的なベースを上げていかなければいけないということで、絡み合わせることが大事だと。個々に一生懸命やっているんです、実は。今の水産業に係っていらっしゃる方は、本当に一生懸命されています。農業に関わっている方も、一生懸命されていると思いますが、そこをもう少しお時間をいただいて、連携させていただいて、同じようにさせていただくことが寛容なのではないかという気がします。そうすると、再雇用の増加を見込めたり、財政に対しても寄与していくような取り組みをしていかないと、なかなか江田島市の財政基盤を構築していくことに関しても、先ほど話しがしましたが、先が見えていかないような状況では、江田島市に住んでいて希望が見えていかないということになりますので、先が見えるような施策の取り組みとして一体化が必要ではないかと思います。言うのは簡単ですがやるのは大変だと思います。それは誰かがやらなければいけないと思います。</p>
座長	<p>話の中身が聞いていると、今、プランニングはしているわけですね。プランニングは、大体いいところまでできている。次にどうやってアクションするかというところで、皆さんは問題を感じているというところだと思います。やりたい人がやれるような状況をつくった方がいいと思うので、やりたいと言っているのに、あなたはダメですよというのではなくて、みんなが参加できる場所をつくって、そのなかで、たくさんいれば、みんな考え方が違うわけですから、意見を交換しあって1つ2つにまとめて、そこで動かす、動いていくというところが必要です。それは今までやってきているはずですが、実際に考えてみると、そこが足りない。その足りない部分を、具体的にここが足りないという、じゃあ、改善しあうというところが、入れたほうがいいかなという気がするんですね。</p> <p>各団体、それぞれ頑張っています。一生懸命やっています。もちろん市もやっています。ただ、何が足りないかを、あまり相手のことをつくとケンカになると思いますが、ここをこうしてほしいという要望をお互いに出し合って、そこを改善しあうというところまで含めてアクションするところが、今後、必要になっているのではないかと思います。情報の発信と先ほどから出ていますが、僕の考え方という、市内のことなので、例えば市役所に張り紙をすればいいじゃないかと、聞いていて思っていたんです。ところが、そうではなくて、皆さん、ホームページだというようなことを言われている。だったら、そのホームページをつくれればいいと思いますが、それは難しいですか。どこかが、誰かが音頭をとらなければ。</p>
委員	<p>おそらくすべてリンクして、ホームページとしては、皆さん、つくっておられると思います。ただ、そのホームページを見るだけでは足りないという。</p>
座長	<p>求人がここにあるというのであれば、ここに求人がありますよと、出していくというのをやっていくサイトがあつていいと思いますが、それをやられているのではないかと思います。それだけだと足りない。</p>
委員	<p>そうですね。情報としては、個々に出されていると思いますが、先ほどから出ているように、情報の集約化だと思うんですね。探しだしていくのは、手間暇かかるので、それよりも委員が言われたように、定住促進と連携していく意味でも、あそこへ聞けば、トータルで、パッケージでわかる仕組みがありますというようなコーディネートがいるのではないかと思います。</p>
座長	<p>そんなの、すぐにつくれますよね。僕なんか、帰ってすぐつくれると思います。誰がどういうふうな情報を提供しあって、そういう流れをつくるかというところが難しいんだと思いますが。あとは、つくったはいいいけど、それを誰が見るかという。一つは、住民の皆さんがどれだけ市のホームページを見ているかというところもあるでしょうし、是非見ていただければいいと思います。市のホームページに、リンクが切れているものが結構あって、そういうものもあります。市だけじゃなくて。最初は皆さん、一生懸命やっていますが、いつの間にか疲れてしまって、気がついてみると、歯抜けの情報がたくさんあるサイトになります。</p>

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

座長（続き）	<p>そういうところも考えて、息の長い連携を考える、情報発信を考える、集約も考えて、情報発信も考えて、そういうコミュニティができていけばいいんだろうと考えているんです。</p> <p>うまくまとまらないと申し訳ないのですが、おそらく、今日、皆さん、ここでおっしゃられたことを、自分の身の回りの人たちを巻き込んで、動かしていけば、それなりの成果が出てくるのではないかと思うんです。それがどのレベルであっても、つまらないよと言われていたものであっても、みんなで協力しあってやっていると、結構いいかたちになるのではないかと。そこに行政も、どっぷりつかっていただければ、かなり動いていくと僕は思っていますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>今回、パブリックコメントがこれだけたくさん出ているのを見て、普通県の計画とかの計画のパブリックコメントをやっても、そんなに出てくる話ではないわけです。すごく皆さん関心が高いのかなと思っていますが、そのなかで、委員が昨年度携わった総合計画の中身とほとんど変わっていないというところ、今回の戦略で何を目玉にして、何を戦略として打ち出すのかというのが見えにくいんだろうと思います。重点プロジェクトというかたちで、上がっていますが、重点のなかで、具体的に何をやっていくかが、なかなか見えていない、総合計画で上げている施策とそんなに変わっていないのではないかとといったなかで、今日出ている意見は、ほとんど定住とか人を呼び込むための住居や仕事の戦略について、何か今回の戦略のなかに打ち出すものが欲しいのではないかと思います。お金の掛かる事業を今の段階で入れ込むのは難しいと思いますが、こういう皆さんの意見をとりまとめて進めていきますよ的な事をこちらの戦略への書き込み、そういう協議会をつくりますというような具体策が見えるかたちにすると、今から市もそういうところに取り組むのかという期待が持てるのではないかと思います。できる範囲のことが、このなかには書けないかなと。</p>
座長	<p>そうですね。そろそろ時間も関係してきますので、パブリックコメントを基にして、議題2に書いてある人口ビジョン案と総合戦略案が修正、書き込まれていることになっています。今、パブリックコメントについて特にご意見がなければ、この2つ目の議題に移りたいと思います。（2）江田島市人口ビジョン案及び江田島市総合戦略案について事務局より説明します。</p>
事務局	<p>（2）江田島市人口ビジョン案及び江田島市総合戦略案について【資料2】【資料3】 資料2，資料3をご覧ください。（「江田島市人口ビジョン案及び江田島市総合戦略案について」説明） ※内容は資料2，資料2（追加資料），資料2 参考資料，資料3のとおり</p>
座長	<p>質問はございますか。今のままでいくと、平成52年には道も直せなくなるという感じですね。先ほど出た意見で、総合戦略、結構ページがあるので、具体的にどうなっているかがわかりづらいというところはあるかもしれませんが、今後、総合戦略というものを市民はどうやって見ていけばいいかを説明していただけるとありがたいのですが。</p>
事務局	<p>考えているのは、当然1つとしてはホームページ掲載という案が出ています。それプラス、どちらかというところ、人口ビジョンの方の現状を知っていただくということに評価を当てたいと思うのですが、市の広報誌で、今話しているのは、何回か、特集みたいなかたちで内容を掲載して、現状を知っていただいて、戦略でこういうことを考えているのを見ていただくかたちにしていこうかと考えています。</p>
座長	<p>見る時間がなくて、意見をくださいというのも、非常に心苦しいですが、その時期はどのくらいを考えておられますか。パブリックコメントの対応を公表する時期と、人口ビジョンを広報する時期は、もうすぐですか。</p>
事務局	<p>一応、来月のどこかでできればと思っています。必要な調整をさせていただいた後になります。広報は、締め切り日の関係で、1月号ぐらいが最短で、そこからというかたちになるかと思っています。</p>
座長	<p>もうちょっと時間はあるんですね。</p>
委員	<p>質問ですが、江田島市まち・ひと・しごと創生本部と記載されていますよね。この説明をお願いします。パブリックコメントの60番です。</p>
事務局	<p>市の内部の検討機関として、今日の会議を諮る前に、必ず開いていて、そのメンバーは市の事業を持っているところの部長と、本部長が市長、副本部長が副市長で構成している市の内部検討組織です。</p>

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

委員	<p>そこで提案ですが、市の内部で検討されているということですが、今日の有識者会議のなかでも、貴重なご意見が出ましたし、この問題は前回、方針指針を出して、今日は3回で終了ということだと思いますが、実は通年を通して検討していかなければいけない内容ではないかと思います。PDCA をするために、ある情報として出されたことに対して、誰が検討していくかということになると、市の内部では、検討されると思いますが、市民の皆さんが実際にそういうのを行うかどうかということを検証する仕組みがない。ですから、例えば、まち・ひと・しごと総合戦略という位置づけになっていると思いますので、政府などがよくやる手ですが、総合の戦略室とか、戦略会議とか、名称はいいですが、定期的にこの話を、議論を、市民を交えてできる場をつくったらどうかと思います。有識者会議としては方向性を outsourced させていただく。その PDCA を誰がするかという集まりが、そのなかでいろんな意見が新たに出ていたり、先ほど少し話をさせていただいたものを市にも反映する、市民にも反映できるような組織ができれば、情報の共有化が進んでいくのではないかという気がします。本部長は市長さんのままでけっこうだと思いますので。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた PDCA の話ですが、今回の仕組み、仕掛けのなかで目標数値を設定するというのがあるが、それについては、毎年出てくる数値で、今、こちらに盛り込んで書いていますので、毎年数値、達成しているかどうかという辺りで、ちゃんと伸びているのかを、誰が見てもわかるような成果かどうかを、見ることはできる仕組みは盛り込まれていると思います。それについて、今後、PDCA を回してローリングしていくにあたって、どういったかたちでやっていくかという、これは一つ、国の仕組みに盛り込まれているのは外部組織の皆さんと一緒に、成果検証をやりなさいと言われていたので、そこが1つ、それプラス、市民の方をどうするかは、やり方について、考えられる余地があるかだと思いますので、実際、どういったかたちで PDCA を回すかは、なかで検討させていただければと思います。</p>
委員	<p>その結果に対してのこだわりじゃなくて、今日までに皆さんでご審議していただいた内容も含めて、また新たにいろんな問題点が見つかったり、市民の皆さんから提案があったりするところの受け皿としての意味合いも大きいのではないかと思います。通年を通してこの活動という言い方は変ですが、まち・ひと・しごとに対して市民の皆さんを交えて議論できる場が常に開かれている、市政に反映していただいたり、われわれ民間が参考にしたり、反映していける場があつていいのではないかと思います。ですから今年度はこれが区切りとしても、平成28年度に立ち上げて、江田島まち・ひと・しごと創生総合戦略会議とか、そういったかたちであれば、ありがたいなと思います。</p>
委員	<p>非常に大事なご指摘だと思います。これは作品じゃなくて、これでできあがって完成ですと、棚に飾るものではないので、36ページのところに、今回、検証、必要に応じて修正を図っていきますと赤で加えられていますが、ここが肝なんだろうなと思います。PDCA を回すプロセスに、どれだけ市民もそうですし、さっきから指摘が出ている、僕も何人か会って話を聞いていますが、点で頑張っている人は、けっこういっぱいいます。それがみんな孤立している様子があつて、そういう人たちに、どういふふうにサポートしていけばいいか、情報発信にしても、フェイスブックで江田島へ行こうなんていうページを自分で立ち上げて、2000人以上読者を獲得している人がいたり、耕作放棄地にしても、井上さんのように「江田島芋焼酎でなくて」なんかを植えて、つくり始めて、彼ともこのあいだ2時間ぐらい話しましたが、市がうまくバックアップしてくれると、もっと信用が増して土地を預けてくれる人も増えて、実はそうなる、人も雇えるようになると、そうすると、耕作放棄地をよみがえらせて、こういう焼酎をつくるという魅力的な仕事の求人が、また一つ増える、それはすごい PR のネタにもなるので、ただ、ホームページをつくってもどうかというのはありますが、いいネタがあれば、それはいくらでも情報発信力を持ちますから、そういう企みをみんなで話し合いながら、ここから、今後、具体化していきますというパブリックコメントの答えも多かったですが、どう具体化するか、実は肝で、今の段階だと江田島市を他の市に差し替えても、別に成立するレベルのものが割合としては多いかもしれませんが、それをいかに具体化していくなかで、これは江田島じゃないとできないことだねということにしていくかが、すごく大事だと思うので、いい PDCA も巻き込んだ回し方をつくっていけるかどうか、大事なことだと思います。</p>

【平成27年10月27日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第3回）要点録】

委員	ありがとうございます。個々に活躍していらっしゃる方は、本当に頑張っている方が多いので、皆さんの気持ちが高まらないような応援をさせていただきたいですね。定期的にそういうことを話し合える場が是非欲しいですね。
委員	情報発信しても、そういうのを含めて、今、どんな情報発信がされているか、全部棚卸ししてみても、ここをリンクで、こうつなぐと、すごく使う人にとってはいいよねというところを、例えば話し合うのもプロセスの一つだと思います。
座長	<p>ありがとうございます。おそらく各団体に集まってくださいという、集まると思います。あとは市がどうやって係っていくかが決められれば、どういう場であっても、動いていくのではないかと。逆にいうと、これだけ固まっている市は珍しいと思うので、うまくそれが互いに動いていくといいかなと思います。この場でどういう委員会なり、場をつくるかが決められるかという、なかなか難しいところがあるので、それはまた、僕と事務局で話をし、僕も今回で終わりなので、厄介払いされたら終わりですが、そうではなくて、今後もつきあっていこうと思っているので、何かそういうことができないうか検討させてください。ダメだったら申し訳ないです。意見は出尽くしたと思います。特にご意見がございましたら、お願いします。</p> <p>2つの協議事項がこれで終了しました。最後に申しあげましたが、修正が必要な内容は、座長、僕にご一任いただければと思います。事務局と調整して、最終版にしたいと思います。この方法でよろしいでしょうか。問題であれば、自分も加わりたいた言っていただけばかまいませんので、それでは僕に一任していただくということでありがとうございます。ここで最後、たった3回しかやっていませんが、皆さんのご都合がすべて合うかたちで行えたということではないかと思っておりますが、逆にいうと、3回も皆さんに貴重なお時間をいただき、議論させていただきました。ここに書いてありますが、5年間の総合戦略をとりまとめることができましたと書かれていますが、まとめたとは、実は思っておりません、PDCAのなかで、これを生かしていくために、どうやって皆さんで動かしていくかということを考えてうえで、今後とも総合戦略をやっていくうえで、おつきあいいただければと思います。3回でしたが、ありがとうございました。これで総合戦略をかたちではありますが、まとめることができました。それでは、協議事項4、その他がでございます。事務局から何かございますか。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>座長からもありましたように、取りあえずのかたちということで、これからまたどんどん進化していくべきものだと我々も思っておりますが、人口ビジョンと総合戦略をいったんのかたちということで、まとめさせていただきました。お忙しいなか、お集まりいただきましてありがとうございました。引き続き、思いついたことなどあれば、是非教えていただければわれわれも真摯に受け止めて取り組みに生かしたいと思っております。今後ですが、成果指標というので、総合戦略を設計していますので、実際にやってみて数値が出た段階で、具体的にどうだったという検証のための会議を開かせていただきたいと思いますので、そのとき、もしかしたら役職、異動がある方もいらっしゃるかもしれませんが、そのときはまたご協力をお願いします。</p>
座長	<p>5 閉会</p> <p>それではこれで、本日の協議事項はすべて終了しました。皆さま方のご協力ありがとうございました。以上をもちまして江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議第3回会議を閉じたいと思います。お疲れさまでした。ありがとうございました。</p> <p>（終了）</p>